

融合研究臨床応用推進センター

第3回融合研究臨床応用推進センター講演会が 開催されました。

去る9月19日木曜
17時から、医学部
臨床講義棟大講堂
にて、「第3回融合
研究臨床応用推進
センター講演会」
が開催されました。

工学部附属ものづくり教育実践センター
石田和義准教授から、ものづくり教育実践
センターの紹介、医学部研究者との関わり
を過去の事例を踏まえ、医療器具製作、改
良について、また、医学部キャンパス研究者
の実験器具、用具等の製作についてお話し
いただきました。

(講演終了後、すでに製作依頼相談が進行しています。)

救急集中治療医学講座 松田兼一教授に
は「企業との共同研究」について、成功例、失
敗例を実例を挙げ、具体的にお話しいただき
ました。

前田学長、新藤
理事、佐藤理事、
島田病院長にご
出席いただき、甲
府商工会議所「医
療関連ものづくり
交流会」の企業
の方々もご来訪
いただきました。



News letterの研究者情報は、研究者総覧、各HPをソースにインタビューし掲載しています。詳細情報は、大学HP・各研究室・講座・医局等で公開されていますので、あわせてご覧ください。



附属病院放射線部 坂本技師長に聞いてみた

放射線部は、画像診断部門と放射線治療部門があります。画像診断部門ではX線撮影、造影検査、X線CT検査、血管撮影検査、心臓カテーテル検査、MRI検査、核医学検査、骨密度測定など多種多様な検査・診断と各種IVRなどの治療を行っています。放射線治療部門では高エネルギーX線を用いた治療、密封小線源による治療、非密封放射性同位元素による治療を行っています。

放射線部内で行う検査・治療に関わる職員は、放射線科医を始めとするほぼ全診療科の医師、診療放射線技師、看護師、看護助手、技術専門職員、事務職員など多職種です。

診療には多数の大型装置を用いていますが、装置の性能を有効かつ効果的に利用するためには補助具(大道具、小道具のような物)が欠かせません。市販の用具を用いていますが、改良や新たな発想の補助具が必要な場面があります。開発にご協力ください。

一例ですが、放射線治療部門で開発した「アブチェス」は本学で特許を取得し、全国の多数の診療現場で使用されています。

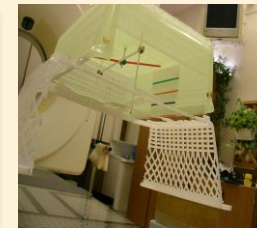
放射線部の装置は物質(物体)を壊さず中の状態を三次元的に観察することができます。(これらは診療用の装置ですので使用は限定されます)



アブチェス



初代：手作り



4代目
現行

